



勉強会 240801

経営数字の見方

勉強会の意義・目標

▶ 【意義】

数字って難しく考えていませんか？

経営数字は、企業活動の「見える化」を実現するための重要なツールです。これにより、経営者や管理者は、現状の把握だけでなく、将来の予測や戦略的な意思決定を行うことが可能となります。

スタッフはこれを知ることによって、今の会社の状況や目標に対して進捗を把握できます。

▶ 【目標】

当社でも、毎週の昼礼で営業部さんからアナウンスがありますね。

数字の内容を把握することによって、漠然と数字の発表を聞き流すのではなく、それを聞いて、自分に何が出来るかといった意識を持っていただけるようになっていただければ成功だと思います。

最初に・・・問題です

- ➡ ①昨年度の売上高は？及び前年対比・営業利益額
- ➡ ②本年度の売上目標・解れば粗利益額
- ➡ ③今月の売上目標・6月度売上・前年比

➡ 固定費とは・・・

固定費とは、企業の経営活動において売上や生産量の変動に関係なく一定の期間ごとに発生する費用のことを指します。これらの費用は、たとえ売上がゼロであっても発生し続けるため、企業の経営においては重要なコスト項目です。

経営数字進行表ではどこ？

人件費・減価償却費・接待交際費・広告宣伝費・組合活動・賃借料・教育費・採用費・その他経費

変動費とは？

- ▶ 変動費とは、企業の経営活動において売上や生産量の変動に応じて発生する費用のことを指します。変動費は生産や販売の活動に直接関連し、活動量が増えれば増えるほど費用も増加し、逆に活動量が減少すれば費用も減少します。変動費は企業の利益率に大きな影響を与えるため、効果的な管理が必要です。変動費を最適化することで、原価を下げて利益を確保することが可能となります。

経営数字進行表ではどこ？

仕入れ・(PP人件費)・(外注加工費)

粗利益とは

- 粗利益とは、企業の売上総利益とも呼ばれ、売上高から売上原価を差し引いた金額を指します。粗利益は、企業が商品やサービスを販売した際に得られる直接的な利益を示し、企業の基本的な収益力を評価する重要な指標です。

粗利益の計算式

粗利益=売上高-売上原価

粗利益率の計算式

粗利益率=(粗利益/売上高)×100

用語の説明

- 減価償却費とは
減価償却費（げんかしょうきやくひ）とは、企業が所有する固定資産（建物、機械、車両など）の購入費用を、その資産の使用可能な期間（耐用年数）にわたって分配して計上する費用のことを指します。減価償却費は、会計上の費用として毎期一定額ずつ計上されますが、実際のお金の支出が伴うわけではありません。

減価償却費の重要性

費用配分: 資産の費用を長期間にわたって分配することで、収益と費用を一致させ、正確な利益計算ができます。

税務対策: 減価償却費は費用として計上されるため、課税所得を減少させる効果 あります。

機器関連 5年。ソフトウェア 3年が一般的です。

営業損益と経常利益とは

- 営業損益
売上高から売上原価を差し引き、さらに販売費および一般管理費を差し引いたものです。
営業損益=売上高-売上原価-販売費および一般管理費
- 経常利益
営業損益に加えて、営業外収益（例えば、受取利息や受取配当金など）や営業外費用（支払利息や有価証券評価損など）を加減したものです。
経常利益=営業損益+営業外収益-営業外費用

営業損益：企業の主たる営業活動から得られる利益を示す。企業の本業の収益力を評価するために用いられる。

経常利益：営業損益に営業外収益や営業外費用を加減したものの。企業の通常の経営活動全体から得られる利益を示す。